

重点戦略

どうやって未来像を実現するの？



まずは、複数の政策分野を融合させた11の「重点戦略」に優先的に取り組んでいくんだ！

重点戦略とは？

- 1 未来像を実現するために、とくに優先的に取り組むべき政策
- 2 「京都らしさ、独自性」といった都市特性や強みを生かす政策
- 3 行政だけでなく、市民や企業と「共汗」して推進する政策
- 4 単一分野だけでなく、複数の行政分野を「融合」した政策

市民ぐるみで、くらしやまちの変化を実現する 「低炭素・循環型まちづくり戦略」

基本的な考え方

資源・エネルギー多消費型から、低炭素・循環型の都市のあり方とくらし方へ転換し、温室効果ガスの大幅な排出削減を図る。

そのために、既存ストック^{*}の有効活用と低炭素と整合する望ましいストックの形成、公共交通を有効利用した歩いてくらせるコンパクトな都市づくり、緑と自然の育成と活用、再生可能エネルギーの拡大やリデュース（ごみの発生抑制）とリユース（資源の再使用）の推進によるごみの減量、伝統技術と先端の科学技術、歴史と文化を融合させた低炭素時代のものづくり産業の創出など、世界を牽引する取組を進める。

* ストック：道路・港湾・住宅・公園・緑地・病院など、市民生活の基盤を表す。

環境にやさしい 都市づくり

- 既存ストックの有効活用と望ましいストックの形成
- 公共交通を有効利用した歩いてくらせるコンパクトな都市づくり
- 緑と自然の育成と活用

再生可能 エネルギーの 拡大、ごみ減量

低炭素・循環型の都市のあり方とくらし方への転換

低炭素時代の ものづくり産業 の創出

温室効果ガスの大幅な排出削減

戦略を推進するうえでの役割分担*

市民・団体

地域ぐるみでごみの減量・リサイクルを推進し、環境にやさしい取組を実践など

企業・事業者

再生可能エネルギーの積極活用など

行政

市民・事業者・地域と連携したごみ減量・リサイクルの推進など

* 戰略を推進するうえでの役割分担：他の主体も想定できるが、各戦略の表現を統一するため大きく3つに区分して表記

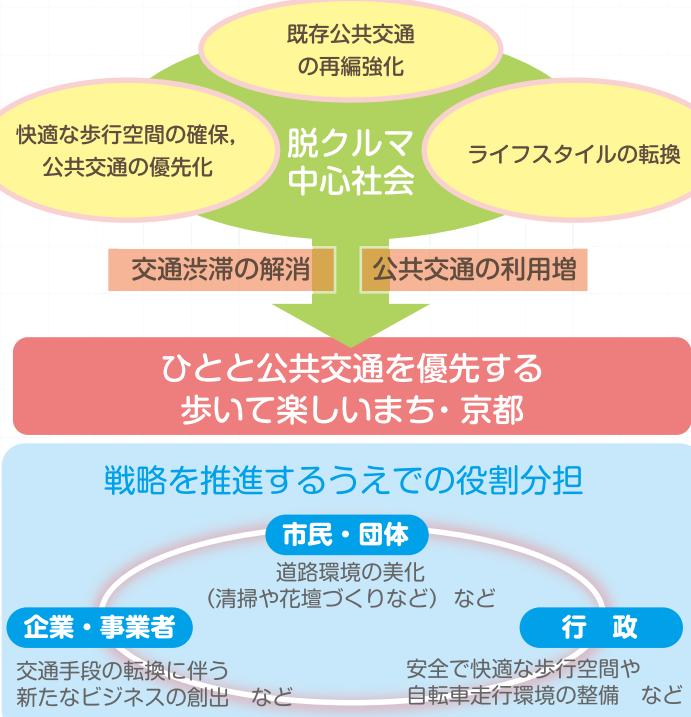
ひとと公共交通を優先する 「歩いて楽しいまち・京都戦略」

基本的な考え方

観光地や都心の交通渋滞を解消するとともに、市民や観光客による公共交通の利用増がさらなる利便性の向上を実現する好循環をつくり出すことで、過度なクルマ中心社会からの脱却を図り、低炭素型で、ひとと公共交通を優先する歩いて楽しいまち・京都をつくり上げる。

そのために、四条通や東大路通などにおける快適な歩行空間の確保や公共交通の優先化、モビリティ・マネジメント*を通じた歩いて樂しいくらしを大切にするライフスタイル（くらし方、生き方）への転換、既存公共交通の再編強化などを推進する。

* モビリティ・マネジメント：「かしこいクルマの使い方」を考え、実践できるよう、交通機関のCO₂排出量比較などを盛り込んだ動機付け情報や公共交通利用促進マップ、交通行動に関するアンケートなどを活用したコミュニケーションを図り、自発的な交通行動の変化を促すこと。

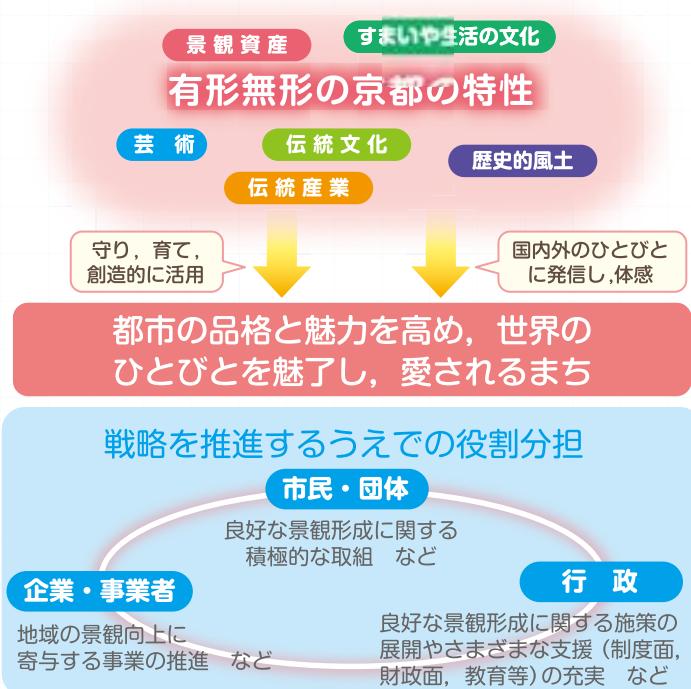


歴史都市の品格と魅力が国内外のひとびとを魅了する 「歴史・文化都市創生戦略」

基本的な考え方

都市の品格と魅力を高め、世界中のひとびとを魅了し、愛されるまちであり続ける。

そのために、歴史の重層性を実感できる建造物や庭園などの多様な景観資産、自然景観と文化的資産が一体となった歴史的風土、日本を代表する伝統文化・芸術・すまいや生活の文化、高い感性と匠のわざを備えた伝統産業など、有形無形の京都の特性を守り、育てることはもちろん、創造的に活用する。さらに、広く国内外のひとびとに発信し、体感していくだく。



魅力ある地域資源と既存の都市インフラを生かす 「個性と活力あふれるまちづくり戦略」

基本的な考え方

京都のアイデンティティ*である歴史や文化の蓄積によって育まれてきた、地域ごとの資源を創造的に活用するとともに、既存の都市インフラを生かした、個性と活力にあふれたまちづくりを進める。

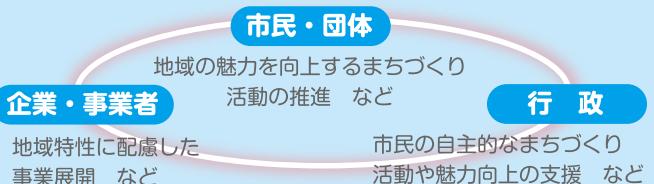
そのために、市内それぞれの地域が培ってきた歴史的建造物や庭園、伝統行事、景観といった個性ある資源を生かして、公民協働による特色と輝きのある地域づくりを行う。同時に、地下鉄沿線の岡崎地域や山ノ内浄水場跡地などといった大きな潜在力を有するエリアを活性化し、既存の公共交通を生かすコンパクトで活力あふれる都市づくりを進める。

* アイデンティティ：都市を特徴付ける個性や独自性



地域ごとの資源を創造的に活用
個性と活力にあふれたまちづくりの推進

戦略を推進するうえでの役割分担



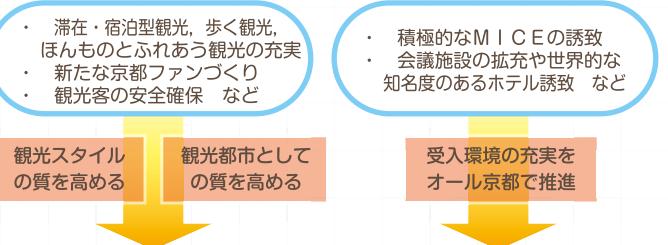
世界が共感する 「旅の本質*を追求する観光戦略」

基本的な考え方

国内はもとより世界のひとびとが、旅の本質に触れ、思う存分堪能できる観光都市を実現するとともに、世界に冠たる国際MICE*都市へと飛躍する。

そのために、滞在・宿泊型観光、歩く観光、ほんものとふれあう観光の充実や、新たな京都ファンづくり、観光客の安全確保などにより、観光客の満足度をより一層高める。また、市民自身が京都の奥深い魅力を知り、学び、楽しむことで、おもてなしの心を醸成し、京都観光の新たな主体として存在感を発揮する。これらにより観光スタイルの質と観光都市としての質を高める。また、積極的なMICEの誘致活動とともに、会議施設の拡充や世界的な知名度のあるホテル誘致などの受入環境の充実をオール京都で推進する。

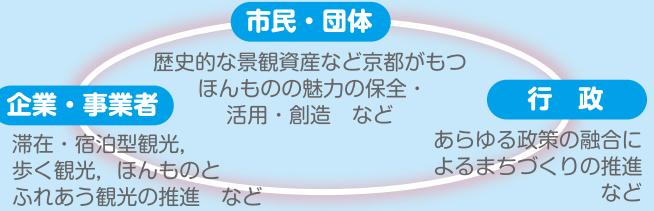
* 旅の本質：ひとに出会い、風景に出会い、心打たれる出来事に出会い、そして新たな自分自身に出会い。旅を通して、気付き、学び、癒され、元気をもらい、成長し、人生が深く、豊かになること。
** MICE（マイス）：企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称



国内はもとより
世界のひとびとが
旅の本質を思う存分
堪能できる観光都市

世界に冠たる
国際MICE都市

戦略を推進するうえでの役割分担



京都の知恵や価値観を生かした 「新産業創造戦略」

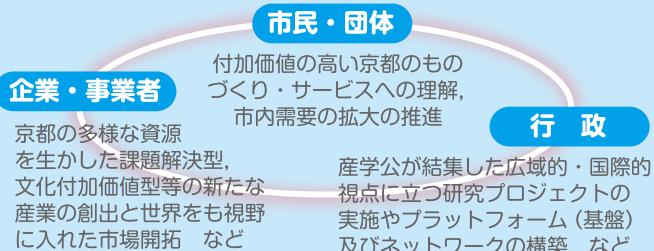
基本的な考え方

加速する国際化の中で新たな市場や顧客を開拓し、産業の競争力を高め、市民に多様な雇用の機会を提供し、やりがいをもって安心して働く環境を整えることで、豊かな生活や社会を支える経済基盤を確立する。

そのために、伝統産業から先端産業までの幅広い業種と、大企業から中小企業までの多様な規模の企業が立地する重層的な産業構造が有する高い技術力や匠のわざ、産学公のネットワークなどこれまで京都が築き上げてきたさまざまな知恵を融合し、広く国内外から人材や資金などを呼び込みながら、環境、健康、コンテンツ、観光、農林などの分野で、付加価値の高い新産業を創造する。



戦略を推進するうえでの役割分担



夢と希望がもてる 「未来の担い手育成戦略」

基本的な考え方

若者が夢と希望をもち続け、いきいきと成長しながら京都への愛着を育める社会を築き、京都や国内外の社会に貢献できるよう、地域の担い手を育むとともに、国際的なビジネスリーダーやクリエイター（制作者、創造者）、さまざまな分野のオピニオンリーダー（世論形成者）といった次代を担うひとを育て、世界に輩出する。

そのために、世界有数の大学のまちであるという京都の強みを生かして学びの環境を充実するとともに、若者が住民自治の伝統が息づく地域の活動にかかわったり、京都の奥深い歴史に裏打ちされたほんものの文化に触れ、学び、身につけたり、新しいことにチャレンジする行動力や国際感覚を養うことができる機会を拡充する。

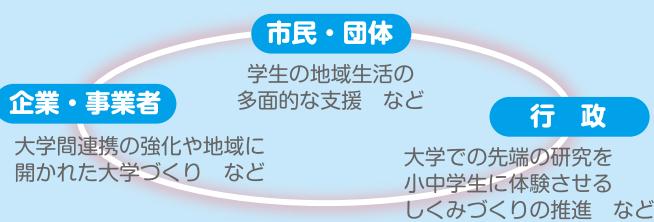
世界有数の大学のまちであるという京都の強みを生かして学びの環境を充実

若者が新しいことにチャレンジする行動力や国際感覚を養うことができる機会を拡充

地域の担い手、国際的なビジネスリーダー、オピニオンリーダー（世論形成者）といった次代を担うひとを育成

世界に輩出

戦略を推進するうえでの役割分担



子どもと親と地域の笑顔があふれる 「子どもを共に育む戦略」

基本的な考え方

子どもと親と地域に笑顔があふれ、安心して子どもを生み、楽しく育てることができ、子どもたちがすくすくと成長するまちづくりを進める。

そのために、社会全体で子どもを育むという「子どもを共に育む京都市民憲章」に基づく行動の輪を広げ、地域力を生かした子育て支援サービスや小児医療体制の充実、仕事と生活が調和し男女がともに子どもを育てる社会に向けた条件整備、健全な育成環境づくりに取り組み、企業も参画して市民ぐるみ・地域ぐるみの子育てと教育を充実する。



仕事と家庭、社会貢献が調和できる 「真のワーク・ライフ・バランス戦略」

基本的な考え方

若者をはじめ、市民ひとりひとりが仕事や家庭生活、社会貢献などにおいて、生きがいと充実感を得て人生が送れる真のワーク・ライフ・バランスを定着させる。

そのため、だれもがともに能力を発揮できる労働環境の整備、子育てや介護などの負担軽減のための支援強化や男性の積極的な参加の促進、地域社会における活動に参加しやすい条件の整備、生涯を通じて学び続けられ、その学びを社会に還元することができる環境の整備などを行う。



真のワーク・ライフ・バランスの定着

戦略を推進するうえでの役割分担

市民・団体

男女が互いの能力を尊重 など

企業・事業者

長時間労働の解消 など

行政

雇用・労働環境の適正化 など

だれもが参加したくなる 「地域コミュニティ活性化戦略」

基本的な考え方

市民のくらしの基盤であり、長年にわたり培われた住民自治の伝統や支え合いの精神が息づく町内会や自治会、学区、商店街など地域のコミュニティを活性化し、ひとつひと、ひとと地域との絆や信頼を強め、自治力を高める。

そのために、だれもが地域活動に参加したくなるきっかけづくり、町内会・自治会等の地域コミュニティや市民活動団体と行政の連携のしくみづくり、地域における市民のさまざまな居場所や活躍の場づくりなどを進め、地域の自主的、自律的な地域運営を充実させる。こうした取組を行政が側面から支援し、地域の主体的なまちづくりを推進する。

地域の自主的、自立的な地域運営の充実

だれもが地域活動に参加したくなるきっかけづくり

地域コミュニティや市民活動団体と行政の連携のしくみづくり

地域におけるさまざまな居場所や活躍の場づくり

行政

側面から支援

地域コミュニティの活性化

ひとつひと、ひとと地域の絆や信頼を強め、自治力を高める

戦略を推進するうえでの役割分担

市民・団体

さまざまな団体が相互に連携しながら、地域活動を牽引など

企業・事業者

地域への貢献は事業者の社会的役割と認識し、地域活動に参画など

行政

市民のつながりをコーディネートする人的支援などの拡充など

安心・安全と生きがいを実感できる

「いのちとくらしを守る戦略」

基本的な考え方

子ども、高齢者、障害のあるひと、外国籍市民をはじめ市民ひとりひとりが、社会のなかで尊重され、役割を果たし、生きがいを実感できるとともに、都市部や郊外・山間部を問わず、いきいきとした生活を送れる社会を実現する。

そのために、世代を越えた日常の交流の場、安定した就労や社会参加の機会を広げるとともに、健康なくらしを実現するための支援、福祉、医療、生活衛生、児童虐待やDV^{*}対策の充実などを進める。また、ユニバーサルデザイン^{**}による住みよい生活環境の整備や、消防・防災、防犯等の分野で市民のいのちとくらしを守るしくみと都市基盤を充実するなど、市民、事業者、行政の協働による安心・安全なまちづくりを進める。

* DV（ドメスティック・バイオレンス）：配偶者・交際相手等からの暴力

** ユニバーサルデザイン：製品や施設等を、すべてのひとが利用しやすいデザインにすることをめざす考え方

協働による安心・安全なまちづくり

世代を越えた日常の交流の場、安定した就労や社会参加の機会の拡大

健康なくらしの支援や福祉などの充実

市民
事業者 行政

住みよい生活環境の整備

市民のいのちとくらしを守るしくみと都市基盤を充実

市民ひとりひとりが、社会のなかで尊重され、役割を果たし、生きがいを実感できる社会

都市部や郊外・山間部を問わず、いきいきとした生活を送れる社会

戦略を推進するうえでの役割分担

市民・団体

多様な自主的活動の推進と相互交流など

企業・事業者

施設等を地域の活動拠点として提供など

行政

市民の多様な取組の支援や活動の場づくりなど